

趣旨説明

安永 悟
久留米大学

皆さん、こんにちは。久留米大学の安永です。本日は、このように多くの先生方に参加いただきましたこと、まずはお礼申し上げます。

さて、私は、初年次教育の基盤は毎日の授業にあると考えています。それだけに、日々の授業の計画と実践は、非常に重要な課題と捉えています。ここにお集まりいただいた多くの先生方も同じ思いではないかと思えます。学生が主体的かつ積極的に学べる授業づくり、つまり活動性の高い授業づくりに、毎日心を砕いていらっしゃると思えます。

本日のテーマは「初年次教育と協同教育をつなぐ—理論と実践—」です。テーマに込めた意図は、初年次教育の授業はもちろん、大学における授業をいかに活性化すべきか、この点を協同教育という視点から、先生方と一緒に考えてみたい、そんな思いから、このシンポジウムを企画しました。「協同教育」という言葉を聞き慣れない方もいらっしゃると思いますが、このシンポジウムを通して、ご理解いただけたらと思えます。

本日は4名の先生方に、お一人ずつ、協同教育の視点から初年次教育について報告をいただきます。

一人目は、創価大学の関田一彦先生です。関田先生には、理論的側面から、協同教育と初年次教育との関係を説明していただきます。

二人目は、神戸女学院大学の古庄高先生です。古庄先生には、協同学習の一技法であるLTD話し合い学習法の実践例をご報告いただきます。

続いて、聖泉大学の上野範子先生に、看護技術教育におけるジグソー学習法の実践例をご報告いただきます。

そして最後が、日本歯科大学の長田敬五先生です。長田先生には、歯科医学におけるPBLテュートリアルの実践例をご報告いただきます。

なお、本日の司会進行は、山口県立大学の甲原定房先生にお願いしています。それでは甲原先生にマイクをお渡ししたいと思います。先生方、よろしく申し上げます。